

「技法」と「表現」の関係について考える

美術教育講座・原田 義明

1. 授業の概要及び目的

本授業は、造形芸術コースの3回生を対象とした授業である。今年度の受講学生数は19人（美術教育専修3回生1人、造形芸術コース3回生10人、4回生8人）である。

本授業は、やきものの代表的な成形法の1つである「ロクロ成形法」により作品制作を行い、技法の特性や形体について理解し、器をつくる作業を通して、工芸における用と美、機能と造形について考察することを目的にしている。

〈到達目標〉

（1）やきものにおける用と美、機能と造形についてロクロ成形に関連づけながら説明できる。

（2）与えられた課題の内容を十分に理解し、作品制作に生かすことができる。

（3）ロクロ成形の技法に習熟し、各自の制作意図に従って作品化できる。

2. 授業内容

殆どの受講生が陶芸又は陶芸Ⅰを履修済みで、基本的な陶芸の経験や知識を有しているが重複履修生を除くと、半数以上の学生がロクロ未経験である。このことを念頭に授業を進めた。課題については、器をテーマに設定して、具体的には飯碗の制作を行った。ある程度経験を必要とするロクロ成形は、土殺し→芯出し→土取り等の一連の工程を繰り返し練習することから始め、「用と美」や「機能」と「造形」について、制作を通して思考を深め、意図した表現の達成とロクロ成形の基礎的な技法の習得を目指した。なお、今回も「つくり手の視点」だけでなく「使い手の視点」を体感することを目的に作品完成後、自作の飯碗を使った食事会を実施した。

3. 「技法」と「表現」の関係について考える

工芸を捉える時、特に「技法」と「表現」の関係について、制作者は作品制作の各工程を通して継続して考えるべき重要なものである。この授業では、工芸における技法が表現にどのような意味を与え、学生が制作の過程

で思考を深め、意図した表現が達成できるような課題設定と授業展開を試みた。

4. 授業改善のためのアンケート

授業最終日にアンケート調査を実施した。DPに関しては、4段階で評価を行い。①向上していない。②どちらかといえば向上していない③どちらかといえば向上した④向上したとした。DP以外の項目に関しては、問12までは5段階評価で行い、①全くそう思わない（良くない）②あまりそう思わない（あまり良くない）③どちらとも言えない（普通）④ややそう思う（良い）⑤強くそう思う（非常に良い）とし、問13～15は記述式とした。回答者16人

5. アンケート結果

【教育学部DPに関する質問事項】

この授業ではシラバスでの重点項目をDP1と4にしていることから、今回はDP1、4のみを抽出する。

DP1. 教科・教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門知識を修得している。

（知識・理解）

②2人 ③4人 ④10人

DP4. 実践を省察し、自己の学習課題を明確にし、理論と実際を結びつけた学習ができる。

（関心・意欲）

①1人 ③5人 ④10人

【授業の内容に関する質問】

1. 授業のテーマ・目的は授業展開の中で明確でしたか。

④5人 ⑤11人

2. この授業の内容・レベルはあなたにとって適切でしたか。

④1人 ⑤15人

3. この授業で、あなたはこの分野への興味・関心は向上しましたか。

④2人 ⑤14人

【授業方法に関する質問】

4. 担当教員の話し方や説明はわかりやすかったですか。

③1人 ⑤15人

5. 担当教員の熱意。工夫は感じられましたか。

④ 2人 ⑤ 14人

6. 制作中のアドバイスの内容は適切でしたか。

④ 1人 ⑤ 15人

7. この授業では、教材や資料が工夫されていましたか。

③ 1人 ⑤ 15人

8. 授業の中で質問や意見発表の機会が与えられ、教員はそれに適切に対応していましたか。

③ 1人 ⑤ 15人

【受講生自身に関する質問】

9. あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

③ 1人 ④ 4人 ⑤ 11人

10. あなたはこの授業に関する授業時間外学習を行いましたか。(時間外での制作, 資料収集, 展覧会等の作品鑑賞)

① 1人 ② 1人 ③ 3人 ④ 5人 ⑤ 6人

【授業全体に関する質問】

11. あなたは、制作の過程で思考が深められ、意図した表現が達成できるような課題設定と授業展開でしたか。

① 2人 ③ 1人 ④ 2人 ⑤ 11人

12. この授業の課題を通して、制作者としての「つくる視点」だけでなく、使用者としての「使う視点」を意識するようになりましたか。

④ 3人 ⑤ 13人

※以下、問13～15の設問は、誤字・脱字等を除き受講生の記述をそのまま転記する。

13. この授業を通して、あなたが考える「技法」と「表現」の関係について記述しなさい。

○技法を身に付けるからこそ、新しい表現ができるし、表現の幅がひろがると思った。

○「技法」と「表現」は相互関係にあるのではないかと考えた。「表現」したいという思いから「技法」について知ることもあるし、「技法」を知っている上で、さらなる「表現」を追求することもあると感じた。

○技法の中に新しい表現のヒントがある。

○自分の考えを表現するための方法が技法だと思った。

○技法を身に付けることで、表現の幅が広がる。

○自分の表したいものを表現するために技法

が役立つ。

○表現をする中で、生まれたり、必要になってくるのが技法だと思います。

○様々な技法があるが、器などの用途がきちんとあるものは、それにふさわしい表現があると思う。

○表現のために技法があるが、技法の中から生まれてくる表現もある。

14. この授業で良くなかった点、改善すべき点を記述して下さい。

○もう少しロクロが使えたら良かった。

○よかった。特になし。

○ありません。楽しかったです。

15. 実習室の状態や学生数など受講環境について意見があれば記述して下さい。

○よかった。特になし。

○適切でした。

○学生数が少し多かった。

○信楽がとても荒かった。

○楽しく制作できました。

6. 「授業時間外学習の促進」について

自己の造形的表現力を向上させるには「手を動かしている時だけが制作ではない」と制作以外での自主的な取組について、授業時の折にふれ指導した結果、前述の間10では授業時間外での制作、資料収集、展覧会等、何らかのかたちで学習を行った受講生は、昨年の約5割から、約7割に増加した。今年度は受講生が主体的に授業時間外学習に取り組んだことが伺える。

7. 総括

工芸の表現活動では、素材とそれを加工する技法の関係性を制作者自身が強く意識する中で、はじめて意図した表現が作品というかたちとなって現れる。今年度は、学生がロクロ成形という技法によって生み出される表現、つまり「技法」と「表現」の関係性について自らの考えを深め、広げられるような支援や授業展開を試みた。アンケート結果からは、「技法の中に新しい表現のヒントがある」や「表現のために技法があるが、技法の中から生まれてくる表現もある」等、相互の関係性についての記述が多く見られた。このことから、当初の授業目的は、概ね達成したと判断する。さらに、授業時間外学習については、今後、学習時間(量)も含め、受講生のより主体的な取り組みを促すような仕掛けを再度検討したい。